

## 【どくどく】

なんでもそうなんですが、  
「日頃の心掛けが大事で、忍者もむろんそうなのです」  
と懐爺が云います。  
どういう心掛けかと聞くと、  
「早寝早起き、起きたとき、錬る前、身を浄め、天地自然に祈りを捧げるのです」  
と云う。  
これは簡単ではない。  
なぜって、ぼくは遅寝遅起き、身を浄めるどころか、ろくに風呂にも入らない（入れない）し、神社に行ったって、祈りを捧げるのが嫌いなくちだから。  
そうか、懐爺は、ぼくの習慣をなおさせようとおもって、そう云っているのかとおもっていたが、あれこれ忍者の勉強をやっていると、これは本当の事だと知りました。  
前にも云ったが、忍者にとって無臭は必須（ひっす）事項。  
毎日身を浄めることは、無臭につながる。  
忍者は、五大（地・水・火・風・空）を味方につけねばならない。  
そのためには、天地自然に祈りを捧げる事は、必須です。

しかたないから、ぼくは、忍者の日頃の心掛けを、真似することにしました。  
そうすると、なぜか風邪をひかないし、勉強もできるようになりました。  
「どうしてかのう」  
と懐爺に聞くと、  
「忍者にとって大切なのは、まずは心と身体から、日々毒を出してしまう事、そのための必須事項なので、金ちゃんも日々毒を出しているからそうなるのです」  
と云う。  
「そんなら、ひび、どくを、いれなければ、よいではないか」  
と云うと、  
「そのとおりで、忍者はそのために肉を食わないのです」  
と云う。  
「それでも空気にだっていくらかは毒が混じっているから、まったく毒を入れないで済むというわけではありません。よって日々毒を出すことが必要なんです」  
と云う。

ううむ、日々毒入り饅頭を食っている感覚があるぼくは、忍者よりももっと毒を出さなければいけない。  
そうかんがえて、虫くだしを用量の十倍呑み込んだら、毛穴から毒がどくどくと出てきました。  
「なんじゃこれは」

と叫ぶと、毒が、  
「わしらの眠りを妨げた天罰が下るぞ」  
と喚く。

「うそこけ」  
と、まったく信じなかったけれども、数年後そのことを実感する事態となりました。

つまり反動というのか呼び戻しというのか、こんどは出した毒の十倍の毒が入ってきたのです。